

(指定解除を答申された文化財)

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
天然記念物 (植物)	由岐貴井神社の ハマセンダン	1樹	海部郡美波町東由岐 字由宇107-7	堺谷 啓男ほか4名 美波町教育委員会

(参考)

文化財の保護に関する条例 (抜粋)

第三章 県指定有形文化財

(指定)

第八条 委員会は、県の区域内に存する有形文化財(法第二十七条第一項の規定により重要文化財に指定されたものを除く。以下同じ。)のうち県にとつて重要なものを徳島県指定有形文化財(以下「県指定有形文化財」という。)に指定することができる。

2 前項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ指定しようとする有形文化財の所有者および権原に基く占有者の同意を得なければならない。ただし、所有者又は権原に基く占有者が判明しない場合は、この限りでない。

3 第一項の規定による指定をするには、委員会は、あらかじめ、審議会に諮問しなければならない。

4 第一項の規定による指定は、その旨を告示するとともに、当該有形文化財の所有者および権原に基く占有者に通知して行う。

5 第一項の規定による指定は、前項の規定による告示があつた日からその効力を生ずる。

(解除)

第九条 県指定有形文化財が県指定有形文化財としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、その指定を解除することができる。

2 前項の規定による指定の解除には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

5 第二項で準用する前条第四項の規定による県指定有形文化財の指定の解除の通知を受けたときおよび前項の規定による通知を受けたときは、所有者は、すみやかに県指定有形文化財の指定書を委員会に返付しなければならない。

第六章 県指定史跡名勝天然記念物

(解除)

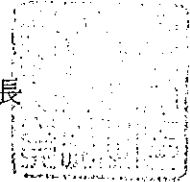
第三十六条 県指定史跡名勝天然記念物が県指定史跡名勝天然記念物としての価値を失つた場合その他特殊の事由があるときは、委員会は、その指定を解除することができる。

3 第一項の規定による指定の解除には、第九条第二項および第五項の規定を、前項の場合には、第九条第四項および第五項の規定を準用する。

教文第833号
平成26年12月22日

徳島県文化財保護審議会会長 殿

徳島県教育委員会委員長



文化財指定の解除について（諮問）

このことについて、文化財の保護に関する条例（昭和32年条例第23号）第8条第3項の規定により、次のとおり諮問します。

諮問事項

（指定解除文化財）

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
天然記念物 （植物）	由岐貴井神社の ハマセンダン	1樹	海部郡美波町東由岐 字由宇107-7	美波町教育委員会

県文審3号
平成27年1月26日

徳島県教育委員会
委員長 松重 和美 殿

徳島県文化財保護審議会
会長 石田 啓祐

文化財の指定の解除について（答申）

平成26年12月22日付け教文第833号により諮問のありました次の文化財については、慎重に審議した結果、徳島県指定文化財の解除を適当と認めますので、ここに答申いたします。

（指定解除を答申した文化財）

種別	名称	員数	所在地	所有者及び管理者
天然記念物 (植物)	由岐貴井神社の ハマセンダン	1樹	海部郡美波町東由岐 字由宇107-7	堺谷 啓男ほか4名 美波町教育委員会

（指定解除を適当とする理由）

我が国において、ハマセンダンは和歌山県、山口県、四国、九州、沖縄に生育する。ハマセンダンは熱帯から亜熱帯性のミカン科ゴシュウ属の落葉高木で、県内の生育は極めて珍しいとして、昭和60年4月12日、「由岐貴井神社のハマセンダン」が県指定天然記念物に指定された。

当初は2樹を指定し、樹勢は旺盛だったものの、平成4年8月の台風により1樹が倒壊した。残る1樹も徐々に樹勢が衰え、平成20年度には、樹木医から樹勢回復は困難と診断された。しかし、わずかに葉が着生し、社叢林の中で生育していることから、美波町教育委員会が施肥をし、経過観察を続けることとなった。

こうしたなか、平成26年度には、県文化財巡視員から、葉が全くみられず枯死しているのではないかとの報告があった。県文化財保護審議会が調査したところ、葉を確認できないだけでなく、樹幹の樹皮が剥離・剥落し、腐朽は本部にまで及んでいた。枯死していることは明らかであり、県指定を解除することが適当と判断する。



1:25,000 阿波由岐

日本地理院 国土地理院 許可証 (第 1000 号)
 昭和 12 年 11 月 1 日 発行 (3 色刷) 1 刷

日和佐

阿波

意見書

昭和60年4月12日に県指定天然記念物を受けた「由岐貴井神社のハマセンダン」については、平成21年に樹木医の現地調査診断を受けました。樹勢の回復は不可能と診断されましたが、発芽等を期待し、施肥し現状観察を行ってまいりましたが、回復ができなかったようなので、県指定文化財解除もやむをえないと考えます。

当該本樹は、住民に長年親しまれていましたので、写真や株の一部を公民館等で展示鑑賞できるよう保存したいと考えております。

平成26年12月12日

美波町教育委員会

教育長 寺内 康博



県指定天然記念物「由岐貴井神社のハマセンダン」の保護対策と経緯について

由岐貴井神社のハマセンダンは、昭和60年4月12日に県指定天然記念物に指定される。樹勢旺盛な頃は、幹周り3.62m、樹幹は地上8m付近から2分岐し、太い方はさらに南北方向に2分岐して多数の枝を分かちながら上方に伸びている。枝張は、東へ約11m、北へ約7.5mであった。

平成20年度に樹木医による現地調査診断をうけ、樹勢の回復は不可能と判断されるも、わずかな葉の着生と樹木付近の広葉樹の中で生育していることから施肥し、観察をするも回復することもなく、現在に至り、指定解除もやむをえないと考える。

平成21～22年

樹木医の現地調査実施。樹勢の回復は、不可能との判断があるものの、わずかな葉の着生と樹木付近の広葉樹の中で生育していることが記載されているので、施肥を実施し経過を観察する。

平成22年～23年度

年1回程度、文化財の巡視とともに様子を見る

平成26年

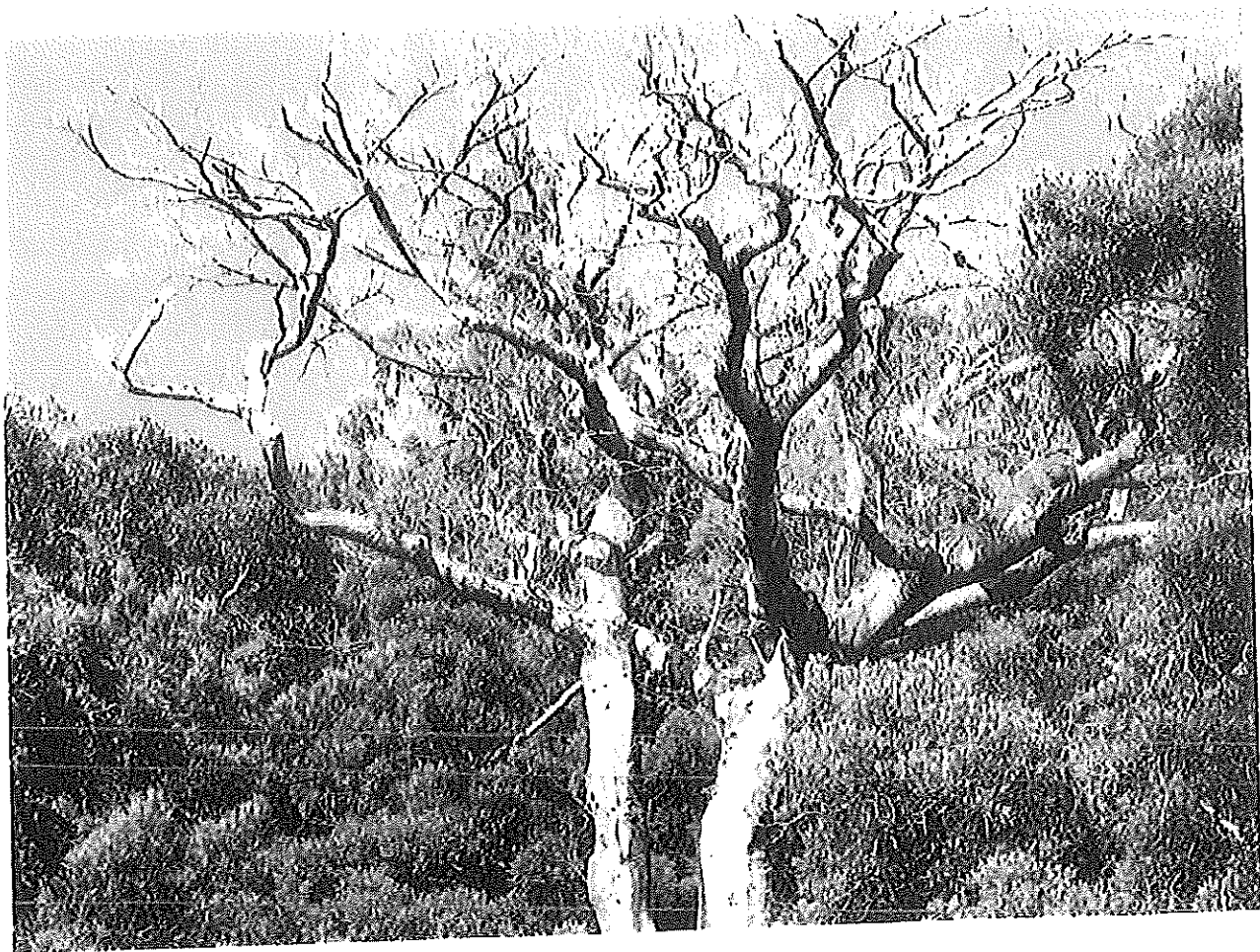
徳島県教育委員会教育文化政策課職員及び美波町教育委員会職員が、現地を確認し調査をおこない、県指定天然記念物には、難しいと判断する。



<H26.12.5撮影>



<H26.12.5撮影>



ハマセンダン全景 (枝先枯れが目立ち、葉が少なく、幹の剥皮がある。)



ハマセンダンの展示板



幹の上部と枝葉の状況 (わずかに葉が着生しており、幹の剥皮が目立つ。)



幹の下部 (ハマセンダンは広葉樹の中で生育している。)



枝の状況 (梢端や枝先の枯損が目立ち、葉量が少ない。)



根の状況 (根株には腐朽箇所が見られる。)

